

静岡県が目指す近未来の3次元データ活用公開された行政情報を活用による「賑わい創出」

静岡県建設技術企画課建設イノベーション推進班 杉本 直也

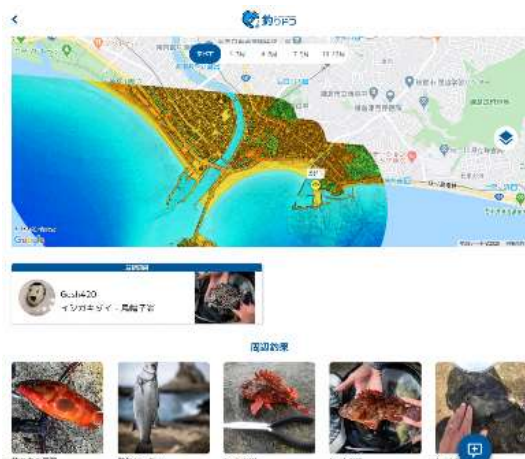
静岡県では、全国で初となる3次元点群データのオープンデータサイト PCDB (PointCloudDataBase) を構築し、平成29年3月に公開しました。構築・公開当初のPCDBに格納されるデータは、静岡県及び県下の市町村で発注される土木工事での、UAV/ドローンやMMS (車載搭載型センサ)、TLS (地上設置型センサ) 等の各種センサで取得される点群データを対象としてきました。現在は、対象センサを航空機レーザやALBなど対象センサを拡大しております。

<何故、今オープンデータ化が必要なのか>

必ず発生する自然災害。発災前と発災後と比較することで即座に被災箇所を特定し、変位量や土量など復旧に必要な情報を速やかにシミュレーションできるようにするためにも現実空間を仮想空間にアーカイブしておくこと(できる状態にしておくこと)は必要不可欠です。また、仮想空間を「みんなで創りみんなで使う」ために点群データを行政内部で抱えることなく、より広く公開・提供することが大切だと考えています。使ってよいかどうか分からない形で公開するのではなく、商用を含めて積極的活用を促すためのキーワードとして“オープンデータとして公開する”ことが大切だと考えています。これによって、行政以外の方々に使っていただくことで、新たな価値の創造を自然とひきおこすことを期待しています。

<最近の話題>

点群データのオープンデータ化に取り組んで4年経過し、徐々にその効果を実感しています。平成29年11月には自動運転のための基盤データとしての活用に向け、ダイナミックマップ基盤株式会社と協定締結が実現しました。また、2020年の「グッドデザイン賞」を受賞するまでに至り、更には、オープンデータ化したALBデータの特徴である海底地形を活用して、釣客に向けた商用サービス「釣りドコ」にも活用されました。建設土木分野の維持・管理を目的として計測したALBが、釣客向けサービス、または、釣客誘致に寄与貢献するとは思ってもいませんでした。まさに、これこそが“価値の創造”だと思います。



<https://turidoco.com/>



<https://pointcloud.pref.shizuoka.jp/>

<本レターを読んでいる行政の皆さまへ>

多くの方から、「オープンデータ化して何か良いことあるのですか?」と聞かれます。悪いことはありません、良いことしか起こりません。是非、オープンデータ化と一緒に取り組みましょう。

以上

2020/10/19 Geospatial.jp